

令和8年6月25日
畜産研究所

青森県基幹種雄牛「第1久桜（だいいちひさぎくら）」の死亡について

1 経緯

令和8年6月19日（金）当直員の18：00定時巡回時に牛房内で横転し、呼吸がない本牛を発見、研究員に報告。研究員が死亡を確認した。

これまでと変わりなく繋ぎ運動し、食欲もあり死亡当日の16：30の終業確認時にも特に異常は確認されなかった。

翌日の6月20日（土）に、家畜診療業務を委託している獣医師が確認し、死亡当日の状況等から「心不全」による突然死と検案された。

2 「第1久桜」について

平成30年10月13日生（7歳8か月齢）

産地：上北郡横浜町（古川亮氏生産）

基幹種雄牛指定：令和7年2月28日（16頭目）

検定成績

脂肪交雑9.9（歴代1位）、上物率100%（歴代1位タイ）

5等級率85%（歴代1位）

3 凍結精液生産状況（令和8年6月現在）

生産本数： 17,205本

販売等本数： 1,312本（うち所内供用208本）

在庫本数： 15,893本

4 当面の対応

凍結精液の在庫が確保されていることから、販売は通常通り継続する。

5 今後の種雄牛づくり

現在、兵庫系の基幹種雄牛は、「寿優福」（としゆうふく）が子牛市場や枝肉共励会等で評価が高くなってきていることから、その後継牛を中心に種雄牛づくりに取り組んでいる。

また、死亡した「第1久桜」については、「寿優福」を上回る肉質の検定成績であり、サシの形状にも優れることから、「第1久桜」後継牛の作出にも努めるものとする。